

- 1 全体構成 第95号まで(87号を除く)の紙面構成に準拠する。
- 2 体裁 A4判、100頁程度とする。全原稿縦書きとする(No.12・13・15を除く)。
- 3 文字号数 15級・10.5ポイントとする。

No.	内 容	頁数	執筆者・依頼数	執筆字数等	原稿基準	段組数
1	表紙(写真等)		函館市	「表紙に寄せて」30字×20行以内 * 編集後記と同じ頁の上段に掲載		
2	中表紙	1	情報部			
3	写真(道中アルバム)	3	情報部			
4	もくじ	3	情報部			
5	巻頭言	2	会長	54字×30行×2頁(変形1段=上8字分の余白あり)、顔写真	変形A	縦1段
6	潮流	4	依頼予定 2編 ・道教委教育長 ・道立研究所所長	32字×30行×2段×2頁 (見出し、タイトル・氏名計10行) 顔写真 ※テーマは一任	B	縦2段
7	論考	13	A…4~5編 B…4~5編 C…4~5編 計13編 ※別紙参照	A、B、C全て 32字×30行×2段×1頁 (A、B、Cの各見出し8行) (各タイトル・氏名5行)	B	縦2段
8	特集	13	情報部 1頁 3編 会員依頼…3編 ※別紙参照	テーマ、3編のタイトル・学校名・氏名 会員ともに 20字×30行×3段×3頁、顔写真 (テーマ、タイトル1頁) (各タイトル、氏名8行)	C	縦3段
9-1	今年の道中 ・道中研究大会を終えて	2	道中研修部長	32字×30行×2段×2頁 (見出し、タイトル・氏名計8行)	B	縦2段
9-2	今年の道中 ・全日中長野大会での提言概要	8	2編 ・提言者(十勝) ・提言者(帯広市)	両提言者とも 32字×30行×2段×4頁 (見出し10行) (各タイトル・氏名8行)	B	縦2段
9-3	今年の道中 ・各部門の活動 (事務局・各部)	7	・事務局長 3頁 ・各部長 各1頁	20字×30行×3段×3頁 (見出し、タイトル・氏名計10行) 20字×30行×3段×1頁 (タイトル・部名8行)	C	縦3段
9-4	今年の道中 ・各地区の活動	20	全20地区 ※別紙参照	20字×30行×3段×1頁 但し、上段8行分は、地区名、地区を象徴する写真またはカットとそのタイトル)	C	縦3段
10	北海道風土記	9	・情報部 1頁 ・8編 ※別紙参照	「北海道風土記」、写真またはカット 20字×30行×3段×1頁 但し、上段8行分は、タイトル・学校名・氏名(5行を含む)、写真等使用の場合、適宜字数を調整	C	縦3段
11	文芸	10	全20地区 ※別紙参照	32字×30行(タイトル・学校名・氏名5行を含む)、2名で1頁	B	縦2段
12	一般会計予算	1	会計理事			
13	役員・理事	1	情報部			
14	編集後記、奥付	1	情報部			
15	道中会歌(楽譜)	1	情報部			
	計	99				

※原稿基準

A:63字×27行×1段

B:32字×30行×2段

C:20字×30行×3段

会誌「全道中」第96号 各原稿の依頼地区・原稿内容等について

ブ ロ ッ ク	原 稿	論考						風土記						特集						地 区 の 活 動	文 芸				
		年度						年度						年度											
	地 区	二 〇 二 六	二 〇 二 七	二 〇 二 八	二 〇 二 九	二 〇 三 十	二 〇 三 一	二 〇 三 二	二 〇 二 六	二 〇 二 七	二 〇 二 八	二 〇 二 九	二 〇 三 十	二 〇 三 一	二 〇 三 二	二 〇 二 六	二 〇 二 七	二 〇 二 八	二 〇 二 九	二 〇 三 十	二 〇 三 一	二 〇 三 二			
1	石狩	B	C	A		B	C			○		○		○							体			◎	◎
	後志	B		A		C	A	○		○		○		○			体				徳		◎	◎	◎
	小樽市	B		C		A		B	○				○		○		知						◎	◎	◎
2	上川	C	B	A		C	B			○		○		○							徳			◎	◎
	旭川市		A	C	B		A	C	○		○		○		○						徳			◎	◎
	宗谷	A		B	A		C	B		○		○					体						◎	◎	◎
	留萌		A		C	B		A					○										◎	◎	◎
3	檜山			A	B			C		○		○		○							知			◎	◎
	渡島	A	B		C	A	B		○		○				○								◎	◎	◎
	函館市☆	C		B		A	C			○		○									知			◎	◎
4	空知	C		B	A	C		B	○		○		○		○						知			◎	◎
	胆振	A	C	B		C	A			○		○		○		○	知					体		◎	◎
	日高		A	C		A		B	○				○				体						◎	◎	◎
5	十勝	A		C	A	B		C		○		○			○	徳							◎	◎	◎
	帯広市		B	C		B	C					○		○			徳						◎	◎	◎
	釧路	B		A	B	C		A	○		○										知		◎	◎	◎
	釧路市		C		B		A	C			○		○		○		知						◎	◎	◎
	根室	C	A		C		B	A	○		○			○			体						◎	◎	◎
	オホーツク	A	B		C	A	B			○		○		○			徳						◎	◎	◎
6	札幌市	B	C		B		A	C	○		○		○		○		徳			徳		体	◎	◎	◎
		13	13	13	13	13	13	13	8	8	8	8	8	8	8	3	3	3	3	3	3	3	3	全	

※ ☆印は表紙依頼地区

1. 「論考」(13地区)の主題

主題A 「心豊かで主体的に生きる力をはぐくむ学校経営」
 主題B 「心豊かで主体的に生きる力をはぐくむ生徒指導」
 主題C 「心豊かで主体的に生きる力をはぐくむ体験学習」

※ 主題とは別に、論題を
付けて下さい。

2. 「風土記」(8地区)

各地区の歴史、人物、文化、産業、風俗、自然等の紹介。なるべく写真や資料等を添付して下さい。

3. 「特集」(3地区)

○テーマ 「学校教育の今日的課題から」～更なる学校力の向上を目指して～
 上記テーマについて大まかに「知」、「徳」、「体」のいずれかから迫る内容とし、テーマとは
 別に論題を付けて下さい。各地区から成果を上げている学校を御推举願います。

4. 地区の活動(全地区)

各地区の今年度の活動の重点、歩み、今後の方向性等。

5. 文芸(全地区)

詩、短歌、俳句、川柳、隨筆、紀行、評論等。

6. その他

執筆にあたっては別紙「編集計画」及び「執筆要領」を確認願います。

7. 原稿(論考・風土記・特集・地区の活動・文芸)の提出期日

令和8年10月30日(金)

執筆要領

- 1 縦書きとし、常体（「である。」体）とする。また、仮名遣いは現代仮名遣いとする。漢字については人名・地名などの固有名詞以外は、すべて常用漢字とする。やむを得ず常用漢字以外を使用しなければならない場合は、ルビをふる。
 - 2 記号・番号は、次の順に使用する。

1 2 3
(1) (2) (3)
① ② ③
ア イ ウ
 - 3 数字は、漢数字とする。漢数字の表記については、研修部による「文書表記等について」に準ずる。
 - 4 役職名については、市町村名・学校名・氏名の順とする。

【例】 ○○市・○○中・道中太郎
 - 5 その他
 - ・段落の始めは1字あける。
 - ・句読点・カッコは1字とし、句読点が上段になるときは、前の行下段の欄外とする。
 - ・見出し、タイトルの行数は、氏名等の分を含むものとする。また、写真・図表・カット等も字数・行数を指定する。
 - ・1ページの原稿基準は、下のA・B・Cとする。

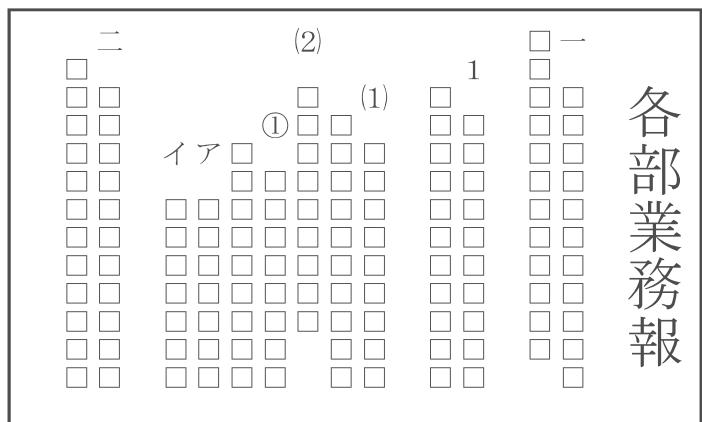
(A : 63字×27行、 B : 32字×30行×2段、 C : 20字×30行×3段)
 - ・「各地区の活動」以外は、タイトルを付ける。
 - ・「各地区の活動」の見出しには、地域性のある写真・絵等を付ける。
 - ・表紙の写真、イラストは、令和8年度道中研究大会を主管する「函館市」にお願いする。

原寸大（縦13.5cm×横18.5cm）で描き、「表紙に寄せて」は30字×20行以内とする。
 - ・原稿の締切日《令和8年10月30日（金）》を厳守していただく。
 - ・指定の枠を設定し、ワードや一太郎等で作成した原稿を、Eメールに添付して送信していただく。写真、イラスト等については、原稿とは別のデータでEメールに添付して送信していただくか、郵送していただく。
 - 6 書式例

① タイトル：大文字、太字。
記号、番号なし。文字のみ。

②本文

$$\begin{array}{ccccc}
 & \stackrel{\leftarrow}{\longrightarrow} & & & \stackrel{\rightarrow}{\longrightarrow} \\
 2 & 1 & \cdots & 2 & 1 \\
 \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\
 & & & \textcircled{1} & \\
 & & & \textcircled{2} & \\
 & & & \cdots & \\
 & & & & \cdots
 \end{array}$$



令和8年5月〇〇日

各地区情報部担当者様

北海道中学校長会情報部
部長

会誌「全道中」原稿執筆者への依頼方法について

日頃より道中情報部の事業推進にご協力いただき、感謝申し上げます。

さて、各地区における「全道中」執筆者への原稿依頼方法につきまして次の要領でお願いいたします。

記

1 執筆者の報告について

令和8年度「全道中」の執筆者を各地区で選出していただき、「原稿執筆者報告用紙」(道中HPからダウンロード)に必要事項を入力の上、各地区情報部担当者様から、下記の道中情報部担当者に期日【7月2日(木)】までにE-mailにより報告してください。

2 執筆者への原稿依頼方法について

(1) 用紙のダウンロード

各地区情報担当者様で別紙「全道中・原稿依頼例」を道中HPからダウンロードし、執筆者のお名前、学校名、内容、字数等の必要事項を入力してください。

(2) 執筆者への依頼送信

各地区情報担当者様から入力済みの「全道中・原稿依頼例」を執筆者に送信してください。

3 原稿の提出について

(1) 各原稿は執筆者から直接、下記の道中情報部担当者に提出(E-mail)していただくこととなります。

4 全道中の配達について

(1) 通常の配布をもって対応することとなります。

〒059-1306 苫小牧市ウトナイ北2丁目5-1

苫小牧市立ウトナイ中学校 山岸 弘昇 宛

TEL 0144-57-6451 Fax 0144-57-6452

E-mail: utonai-jhs3@hokkaido.school.ed.jp

(例)

令和 8 年 月 日

○○立○○中学校

校長 ○○ ○○ 様

北海道中学校長会情報部

部長 ○○ ○○

会誌「全道中 第 96 号」原稿執筆の依頼について

○○の候、貴職におかれましては益々御清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、北海道中学校長会の活動に対し、御理解と御協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、年度初めには、本会の会誌「全道中」の原稿執筆をご快諾いただき、誠にありがとうございます。いよいよ、会誌「全道中 第 96 号」の編集時期が近づいてまいりました。

つきましては、校務ご多用の折、誠に恐縮には存じますが、下記要領にてご寄稿いただきますようお願い申し上げます。

記

1 内容：「」

2 字数 () 字 × () 行 × () 段
タイトル・氏名等 () 行を含みます。本文は () 行です。

3 執筆上のお願い

- ・指定の枠を設定し、ワードや一太郎等で作成してください。
- ・完成した原稿データを E メールに添付して送信してください。
- ・文中に写真を掲載する場合は、写真だけのデジタルデータを E メールに添付して送信してください。

4 ご提出期日：令和 8 年 10 月 30 日 (金)

5. 原稿送付先 (お問い合わせ先)

苫小牧市立ウトナイ中学校 山岸 弘昇 宛

E-mail : utonai-jhs3@hokkaido.school.ed.jp

学校住所：〒059-1306 苫小牧市ウトナイ北 2 丁目 5-1

学校電話：0144-57-6451 FAX：0144-57-6452

令和8年度「全道中」第96号 原稿執筆者報告

地区情報担当者	氏名	地区名	市町村名	学校名
学校郵便番号	学校住所			学校電話・FAX番号
	〒	学校住所	E-mail	TEL FAX
全道中	原稿種別	執筆者氏名	学校名	郵便番号 学校住所 E-mail
	論考< > ※A, B, C			〒 学校住所 E-mail
	風土記			〒 学校住所 E-mail
	特集< > ※知、徳、体			〒 学校住所 E-mail
	地区			〒 学校住所 E-mail
	文芸			〒 学校住所 E-mail
	全日研 提言	十勝		〒 学校住所 E-mail
	全日研 提言	帯広市		〒 学校住所 E-mail
	表紙	函館市		〒 学校住所 E-mail

原稿執筆者報告先

〒059-1360 苫小牧市ウトナイ北2丁目-5-1
 苫小牧市立ウトナイ中学校 山岸 弘昇 宛
 TEL 0144-57-6451 Fax 0144-57-6452
 E-mail: utonai-jhs3@hokkaido.school.ed.jp

原稿執筆者報告用紙提出締め切り 7月 2日 (木)

※この様式は、道中ホームページにワード形式で掲載しています。（サイドメニュー）専門部会→情報